

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 古里 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和4年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

|      |    |   |
|------|----|---|
| ① 国語 | 96 | 人 |
| ② 数学 | 97 | 人 |
| ③ 理科 | 98 | 人 |

#### 5 留意事項

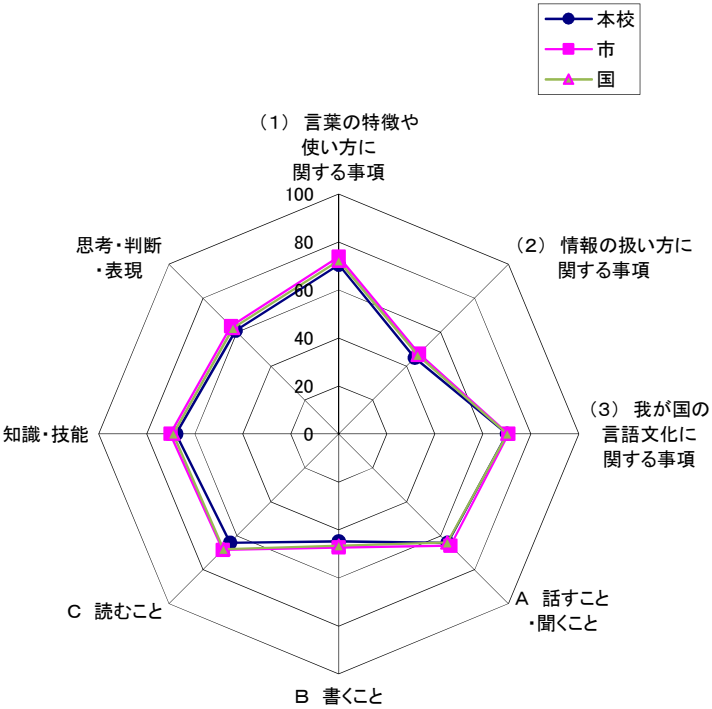
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立古里中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

| 分類  | 区分                 | 本年度  |      |      |
|-----|--------------------|------|------|------|
|     |                    | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | (1) 言葉の特徴や使いに関する事項 | 70.5 | 73.8 | 72.2 |
|     | (2) 情報の扱いに関する事項    | 44.8 | 47.3 | 46.5 |
|     | (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 70.1 | 70.7 | 70.2 |
|     | A 話すこと・聞くこと        | 64.2 | 65.9 | 63.9 |
|     | B 書くこと             | 44.8 | 47.3 | 46.5 |
|     | C 読むこと             | 64.1 | 68.3 | 67.9 |
| 観点  | 知識・技能              | 67.8 | 70.2 | 69.0 |
|     | 思考・判断・表現           | 60.9 | 63.6 | 62.3 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度      |      |      |      |



★指導の工夫と改善

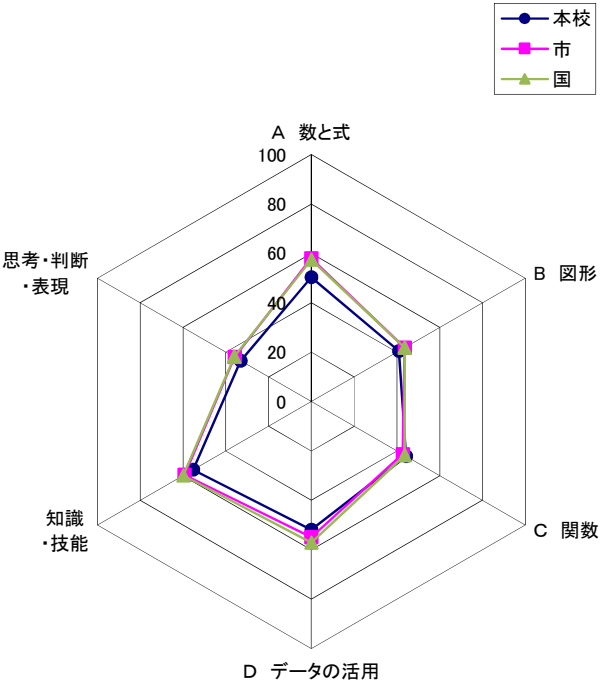
| 分類・区分              | 本年度の状況                                                                                                                                            | 今後の指導の重点                                                                                                                        |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 言語の特徴や使いに関する事項 | 平均正答率は国、市ともに下回っている。<br>○自分の考えが分かりやすく伝わるように表現すを工夫する設問では、正答率がかなり高くなっている。<br>漢字を書く(よるこんで)の正答率がかなり高くなっている。<br>●助動詞の働きについての理解、漢字を書く(のぞく)の正答率が低い。       | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・今後も話し合い活動等において、自分の考えが分かりやすく伝わるように工夫し表現するよう指導を継続する。<br>合わせてその中で、文末の表現に着目させ、助動詞の持つ働きと役割について、深化させていく。 |
| (2) 情報の扱いに関する事項    | 平均正答率は国、市ともにやや下回っている。<br>●自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことにおいては、マイナス3ポイント近くの差がみられた。無回答率も10%を超えている。                                                  | ・どのような情報発信をすれば、自分の考えが相手に伝わるようになるのかを考えさせる。特に、根拠となるべき事項に着目させた文章を書くことを重点に指導していく。                                                   |
| (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 平均正答率は国、市ともにやや下回っている。<br>○行書の特徴を理解するにおいては、市・国ともに約3ポイント正答率が高くなっている。<br>●漢字の行書の読みやすい書き方について理解する及び漢字の行書とそれに調和したかなの書き方を理解するにおいては、市・国と比べやや低い正答率となっている。 | ・今後も書写の充実を図る。漢字の行書の調和のとれた表現の仕方とひらがなの調和にも指導を深化していく。                                                                              |
| A 話すこと・聞くこと        | 平均正答率は国よりも上回っている。<br>○自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すでは、市・国ともに上回る正答率となっている。<br>●論理の展開などに注意して聞くにおいては、正答率が市・国を下回る結果となっている。                              | ・今後も、スピーチ単元等を活用し、自分の考えが相手にわかりやすく伝わるような表現を深化させていく。合わせて、相手の発表の論理の展開などに注意しながら、メモを取って聞くなどのドリル学習も行っていく。                              |
| B 書くこと             | 平均正答率は国、市ともに下回っている。<br>●自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことにおいては、マイナス3ポイント近くの差がみられた。無回答率も10%を超えている。                                                    | ・各教材を中心に、自分の意見の根拠を明確にすることにより、相手に自分の意見が伝わり易くなることを理解させる指導を行う。<br>・単作文指導の機会を多くしていく。                                                |
| C 読むこと             | 平均正答率は国、市ともに下回っている。<br>●場面の展開や登場人物の心情の変化への正答率が低く、特に、場面と場面、場面と描写などを結び付けて解釈することへの正答率が大幅に低いとともに、無回答率も高い。                                             | ・登場人物の心情の変化については、心情を表す語彙を増やすことを意識して指導の充実を図る。<br>・基本に戻り、場面と描写が登場人物の心情の変化にどのようなかわりを持っているかを繰り返し指導していく。                             |

宇都宮市立古里中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

| 分類 | 区分            | 本年度  |      |      |
|----|---------------|------|------|------|
|    |               | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | A 数と式         | 50.3 | 58.0 | 57.4 |
|    | B 図形          | 40.9 | 43.6 | 43.6 |
|    | C 関数          | 44.3 | 42.7 | 43.6 |
|    | D データの活用      | 51.9 | 54.9 | 57.1 |
| 観点 | 知識・技能         | 55.3 | 59.3 | 59.9 |
|    | 思考・判断・表現      | 33.0 | 35.9 | 36.2 |
|    | 主体的に学習に取り組む態度 |      |      |      |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

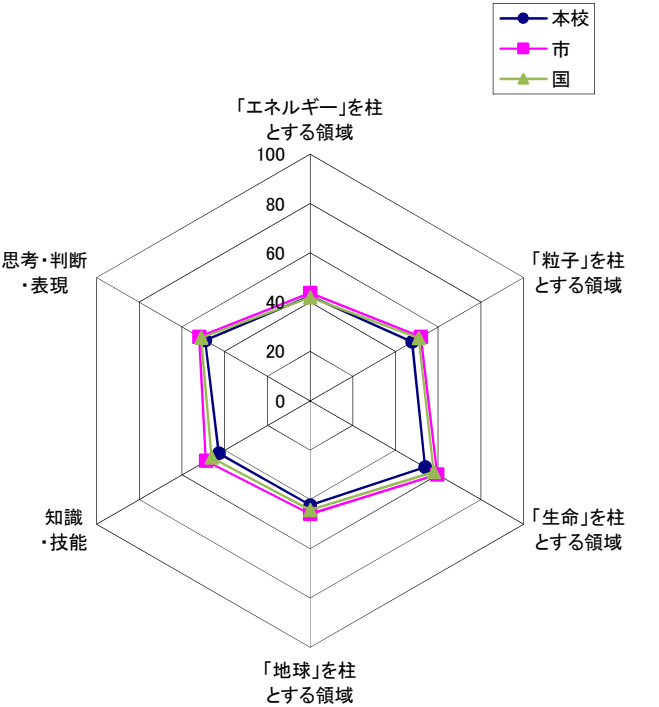
| 分類・区分    | 本年度の状況                                                                                                                                                            | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                      |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A 数と式    | 平均正答率は市よりも7.3ポイント、国より7.1ポイント低い。<br>●目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題では、国よりも正答率が9.5ポイント下回っている。<br>○ある偶数との和が4の倍数になる数について新たな事柄を見出す問題では、国の平均を2.6ポイント上回った。 | ・整数、自然数などの用語の意味の理解があいまいな生徒がいるので再度確認し定着させる。<br>・学習プリントの準備やワークの活用により、計算問題の反復練習を続け、計算力を高めていく。また、問題文を読む際に、線を引いたり図に表したりして問題の内容を理解することで、等しい関係や大小関係を的確にとらえ、文字を使って表す練習を、補充学習として扱っていく。 |
| B 図形     | 平均正答率は市と国よりも平均より、3.7ポイント低い。<br>●筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する問題では正答率が9.3ポイントと1割を下回った。<br>○証明で用いられている三角形の合同条件を答える問題では正答率が国と同値である。                                        | ・3年生では「相似な図形」、「円」について学習するが、その事前の学習として、1、2年の学習内容の理解が不十分なところを復習させる。その際、作図の方法や用語、定義、定理について再確認させて定着を図る。                                                                           |
| C 関数     | 平均正答率は市よりも1.6ポイント、国よりも0.7ポイント高い。<br>○与えられた表やグラフから必要な情報を読み取る問題では、市の平均より8ポイント高い。<br>●一次関数の変化の割合の意味を理解しているかを当問題の正答率が市を2.2ポイント、国を5.9ポイント下回っている。                       | ・関数に関する基本的な学習内容を、表、式、グラフと関連づけながら再確認させ、定着を図る。その際に、技能だけでなく、意味を正しく理解し活用できる力を身につけさせる。そのために関数の学習では、身の回りの事象を関数的にとらえる課題を扱うようにし、表、式、グラフを用いて考えることのよさを味わえるように取り組ませる。                    |
| D データの活用 | 平均正答率は市よりも2.9ポイント、国よりも3.2ポイント低い。<br>●箱ひげ図から分布の特徴を読み取る問題では正答率が市の平均を6ポイント下回っている。<br>●データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題では正答率が国を6.9ポイント下回っている。                      | ・過去に学習した内容を再確認する補充学習を行う。また、復習した数学的な表現や数値を用いて、資料を読み取ったり、傾向を予測したりするなど、活用をする学習を多く扱っていく。<br>・自分の考えをまとめることができるように、授業の中でお互いに説明する機会などを多くつくる。                                         |

宇都宮市立古里中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

| 分類 | 区分             | 本年度  |      |      |
|----|----------------|------|------|------|
|    |                | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 42.5 | 43.8 | 41.9 |
|    | 「粒子」を柱とする領域    | 47.8 | 51.8 | 50.9 |
|    | 「生命」を柱とする領域    | 53.9 | 59.6 | 57.9 |
|    | 「地球」を柱とする領域    | 42.3 | 45.9 | 44.3 |
| 観点 | 知識・技能          | 42.7 | 48.8 | 46.1 |
|    | 思考・判断・表現       | 49.1 | 51.9 | 51.0 |
|    | 主体的に学習に取り組む態度  |      |      |      |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分          | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                | 今後の指導の重点                                                                                                                                    |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「エネルギー」を柱とする領域 | 平均正答率は、市より0.8ポイント下回っている。国より0.6ポイント上回っている。<br>○日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問う問題では、正答率が全国平均より3.8ポイント上回っている。<br>●考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかの問題では、正答率が国平均より5.5ポイント下回っている。                                                                   | ・今後も日常生活や社会の中での事象に興味関心を待たせるように、指導をしていく。<br>・実験を行う時には、実験結果からどのようなことがわかるのかを考え、表現する場面を多く設定していく。また、思うような結果にならなかったときには、実験にどのような改善点があるのかを検討させていく。 |
| 「粒子」を柱とする領域    | 平均正答率は、市より4ポイント、国より3.1ポイント下回っている。<br>○化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈できるかどうかの問題では、正答率が国平均より5.8ポイント上回っている。<br>●化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかの問題では、正答率が国平均より4.6ポイント下回っている。             | ・化学変化に関することが、日常生活のどのような場面で起きているのかの具体例を多く示して、興味関心を高めていく。<br>・化学変化を化学反応式で表すときには、粒子モデルを用い、粒子の組み合わせの変化がイメージしやすいように指導していく。                       |
| 「生命」を柱とする領域    | 平均正答率は、市より5.7ポイント、国より4ポイント下回っている。<br>○アリの行列の作り方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかの問題では、正答率が国平均より0.9ポイント上回っている。<br>●予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことができるかどうかの問題では、正答率が国平均より8.2ポイント下回っている。 | ・探究する実験や観察の場面を多く設定し、予想・仮説を基に実験・観察を行わせ、探究する手順や方法について見通しをもって取り組めるようにしていく。                                                                     |

|                         |                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                            |
|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>「地球」を<br/>柱とする領域</p> | <p>平均正答率は、市より3.6ポイント、国より2.0ポイント下回っている。</p> <p>○継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかの問題では、正答率が国平均より8.2ポイント上回っている。</p> <p>●地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかの問題では、正答率が国平均より8.7ポイント下回っている。</p> | <p>・今後も継続して、視覚的に捉えることができる教材を多く用いて、興味関心を高めていく。</p> <p>・地層の広がりを時間的・空間的な見方から分析できるように、柱状図の分析の仕方を繰り返し行っていく。</p> |
|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 宇都宮市立古里中学校 第3学年 生徒質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

主に国平均と10ポイント以上差がある、本校の特徴をあらわすものを取り上げた。

○学級活動で、「話しあい、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている」で11.8ポイント、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」で13.0ポイント、「話し合いを活かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」で16.8ポイント国平均を上回った。「友達と協力するのは楽しい」の「1.とてもそう思う」を選んだ生徒は16.1ポイント、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」でも10.3ポイント上回った。「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」で11.2ポイント上回った。「自分には、よいところがあると思う(9.0ポイント)」、「学校に行くのは楽しい(8.8ポイント)」、「自分でやると決めたことはやり遂げるようにしている(9.2ポイント)」でも国平均を上回った。

豊かな自然の中、級友や教師とのよりよい関係の中で、自分を発揮することを恐れず、学校生活を楽しく送れている様子が伺える。運動会や合唱コンクール等、生徒同士が目標を共有したり協同して解決方法を話し合ったりする場が多く設けられており、教員が生徒の生活について積極的かつ肯定的に評価し、良好な学級経営を基盤とした、温かみのある学級経営が展開されていると考えられる。

○「学校で授業中に自分で調べる学習で、ICT機器を使っている」では国平均を21.1ポイント、県平均も21.7ポイント上回った。「1・2年生の時にICTを活用した」でも9.8ポイント県平均を上回った。また、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」でも、16.4ポイント国平均を上回った。

インターネット検索による調べ学習だけでなく、レポートの作成や提出など、PCを授業で積極的に活用している。また普段の集会や総会での資料提示、AIDリルでの週末課題提出、各種アンケートの実施等、授業以外でも積極的にICTを活用できていると考えられる。

●「普段1日当たりテレビゲームを3時間以上やる」で国平均を15.2ポイント、県平均を10.0上回った。「学校の授業時間以外に、一日当たり2時間以上勉強をする」で国平均を11.2ポイント、県平均を12.1ポイント、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」でも県の平均を3.5ポイント下回った。家庭学習に費やすはずの時間がゲームに費やされているようである。各種集会で話をしたり、学年通信で保護者に啓発をはかったりした。自分の進路を決める時期、時間を有効に使うことの大切さについて、継続して指導していく。

●「家にある本は、おそらく25冊以下」では国平均を21.0ポイント上回り、「1日2時間以上読書をする」は1ポイント下回った。また「国語の勉強は好き」では、国と県の平均を10ポイント以上下回ったが、97.9%の生徒が「国語の勉強は大切だ」と感じている。

読書活動は言語能力や豊かな感性の育成にとって重要なものである。朝の読書の時間だけでも、継続して読む活動に取り組ませたい。

## 宇都宮市立古里中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                        | 取組の具体的な内容                                                                                                       | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                                  |
|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 確かな学力の育成・向上<br>(わかる授業の実践を通して) | ・各種学力調査とアンケートの結果の分析に基づいた課題と指導法の改善。<br>・興味・関心を高める授業の展開(資料や学習形態の工夫。)<br>・TT、かがやきルームの利用など、個に応じた指導の充実。              | 「1.2年生の時に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっている」では、国平均を13.3ポイント、県平均を9.0ポイント上回った。<br>69%の生徒が「数学の勉強が好き」で90%の生徒が「数学の授業の内容はよくわかる」と回答し、国・県ともに10ポイント以上上回った。興味関心と理解度は関連する。 |
| ICT活用授業の推進                    | ・ICT機器の効果的活用を視点にした授業の展開と活用例の共有。授業以外では：<br>(1)クラスルーム：生徒総会や選挙等で資料の提示、委員会のアンケート回収等。<br>(2)AIDリル：授業での活用及び、毎週末課題の出題。 | 「授業中ICT機器を使っている」では、国・県の平均を20ポイント以上上回った。98%の生徒が、「学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」と回答している。                                                                          |